



実習課題

組織化のための対話を練習してみよう

あなたの同僚を励ましてその怒りを引き出し、恐怖心を乗り越えるよう働きかけるのは、はじめはやりづらいかもかもしれません。しかし、どんなことでも練習をすればだんだん簡単になります。

もし、みなさんがこの本をワークショップやグループで読んでいるのなら、2人で組になって対話の練習をしてみましょう。交代でオーガナイザーの役割を演じてみましょう。もし、みなさんがこの本を一人で読んでいるのなら、より経験のあるオーガナイザーに頼んで対話の相手になってもらいましょう。友だちや家族に頼んで、やってみるのも手ですね。

まず、相手の実際の仕事を尋ねてみましょう。どんな仕事でもかまいません。そして、あなたも同じ職場で働いていると想定してみてください。ただし、あなたはその職場のことをよく知りません。たぶんあなたは新人なのです。食堂など、対話をするのもっともらしい設定をつくってもらいましょう。あなたの質問に誠実に一懸命答えてもらうよう頼んでください。

段階を忘れずに

まず、課題さがしから始めましょう。思いつく限りたくさん質問をしてみてください。そして、相手はその仕事のどんなところが好きで、どんなことを嫌っているのか、時間の経過とともに何が変わってきたか、もし「魔法の杖」があって何でもできるとしたら何を变えたいか、といったことを聞き出しましょう。結論を急いではいけません。

相手が一番関心を持っている問題をつかんだと思ったら、次に気持ちを揺さぶって責任者を非難する段階に移りましょう。相手がこの問題を解決するために何かをしたい、この問題について責任があるのは誰である、とはっきり言えるようしましょう。

続いて勝てる計画を立てる段階に移ります。相手に数の力という着想を与えましょう。また、具体的な行動への参加約束を取り付けましょう。リスクについて説明して免疫をつけてもらったうえで、参加の約束をもう一度取り付けましょう。あなたが次に相手と会うためのフォローアップ計画も決めましょう。

どうでしたか？

対話が終わったら相手から感想を聞いてみましょう。相手に対話の間にどんなことを感じたかを聞きましょう。

- ・あなたは相手の一番の関心事を正しくみつけることができましたか？
- ・ほかにどんなことを質問すべきだったでしょうか？
- ・対話の中で相手が一番頭を使って考えたのはどの部分だったでしょうか？
- ・どの部分が一番楽しかったでしょうか？
- ・もし相手が何か行動を起こすことに賛成したとしたら、相手はなぜそのように決断したのでしょうか？
- ・もしそうならなかったとしたら、もう一度考え直してもらうためにはどうしたらいいのでしょうか？